

三朝町高勢地区多目的ホール整備基金造成事業計画書

1 現状と課題

高勢地区公民館及び体育館は、地域コミュニティー活動の中心である高勢地域協議会の事務局があり、また、毎年同施設を活用した地域の祭りや運動会が開催されるなど、地域の中心となる大切な公共施設です。

昭和54年に建築された当該施設の耐震診断を平成30年に実施したところ、RC造である公民館部分については目標耐震性能を満足しているという判定でありましたが、S造である体育館は「大規模な地震が起きた場合、倒壊の恐れがある」との結果と共に、「鋼材の腐食が激しい」との特記事項が示されました。このことから、令和元年から体育館部分の耐震工事を進めるため「鋼材の腐食状況調査」を実施した結果、あまりにも腐食が激しいために耐震工事中止の判断をしたところです。

耐震工事中止を決定した体育館は、高勢地区の指定避難場所に指定されている施設でもあるため、災害時の住民避難を考えると代替えとなる施設の整備が急がれています。

2 事業の目的及び内容

三朝町高勢地区にある老朽化した体育館を撤去し、新たに住民の地域活動の場や災害時の避難所として活用できる多目的ホールを整備することと、あわせて公民館部分を一部改修することとしています。

令和2年度は、実施設計を実施し、高勢地区多目的ホール整備のため基金を造成しました。令和3年度初旬に実施設計を完了し、当該施設整備工事に着手し完成を目指します。

建物名	事業内容
高勢地区多目的ホール	① ホール新築及び公民館改修実施設計業務
	② ホール新築及び公民館改修監理業務
	③ ホール新築及び公民館改修工事

3 期待される効果

多目的ホールを整備及び公民館部分のトイレ等を改修することで、大規模な災害時に住民が安心して避難する場所が確保されるとともに、長年続く地域の行事をスムーズに開催することができます。

また、多目的ホールに空調設備を設けることで快適な環境が整い、高齢化の進む地域での健康教室や介護予防教室など、一年間を通した多彩な福祉事業の開催が期待されます。

三朝温泉熱気浴施設等整備事業計画書

1 三朝温泉熱気浴施設の現状と課題

三朝温泉街の中心部に岡山大学が所有している「三朝ラドン熱気浴施設」があります。本町は、平成22年度から当該施設を岡山大学から賃貸借契約により借り受け「熱気浴体験事業」を実施してきました。

当該事業は、三朝温泉の特徴であるラジウム温泉を広く発信するため、全国的にまれな熱気浴施設を活用し、三朝温泉の健康効果と癒し体験の機会を設けることにより、ラジウム温泉への正しい理解と、温泉の魅力向上を高めることで、三朝温泉および本町の地域振興を図る目的として事業を実施してきました。成果として、利用者から大変な好評価をいただき、利用者の口コミなどもあり、体験者数を徐々に増やしてきました。平成27年度には4,6千人を上回る方が熱気浴の体験をするなど三朝温泉のPR、温泉の魅力向上など事業効果は絶大なものでありました。

このような中、平成28年10月、鳥取県中部を震源とした地震が発生し、本町では震度5強を観測しました。この地震により家屋をはじめ、公共施設や道路、上下水道など数多くの被害が確認されましたが、ラドン熱気浴施設も地震による被害を受けた施設のひとつでした。

本施設は、大正9年に建設された木造の建築物であり、築後96年が経過しています。岡山大学が行った地震被害状況調査（建物耐力度調査）の結果は、耐力度が基準を下回ることから「改築を要する危険建物である」と判定されました。また、測定室以外（室外・壁の内部など）にも、基礎構造に問題があり、柱に腐食や壁面に筋違いが無いなど地震に耐えることのできない危険な建物であることが判明しました。危険施設となったことにより施設が利用できないことから岡山大学との施設の貸付許可が取り消され、当該事業は事実上休止状態となっています。

三朝温泉をPRし、三朝温泉ならではの効果を体験し実感できる事業として大好評だったことから事業の再開を希望する声が数多くあり、本町としても事業再開に向けた検討をしてきたところであります。

2 事業の目的及び内容

三朝温泉の特徴であるラドン熱気浴を広く発信し、三朝温泉の魅力向上並びに三朝町の地域振興を図ることを目的とし、新たな熱気浴施設の施設整備を行います。

平成30年度は、当該施設整備に係る用地を取得し、基本設計及び実施設計を実施し、三朝温泉熱気浴施設整備のため基金を造成いたしました。令和元年度初旬に実施設計を完了し当該施設整備工事に着手し令和2年2月完成を目指します。

建物名	事業内容	改修の詳細
三朝温泉熱気浴施設	①熱気浴施設実施設計監理事業	熱気浴施設実施設計監理業務費
	②熱気浴施設整備事業	熱気浴施設整備費

3. 期待される効果

三朝温泉が健康増進効果の高い世界一のラジウム温泉であることを最大の観光資源としながら、その資源にさらに磨きをかける取り組みを進めるとともに、日本遺産である三朝温泉を全国さらには海外にPRすることによって、三朝町ならではの観光地としての魅力をさらに高めることが期待できます。

また、観光客の増加、地域資源の掘り起しが、本町全体の地域振興を促し、豊かな町づくりが図られるほか、住民福祉の向上につながることを期待されます。

4 概算事業費及び行程等

平成30年度に策定した「第11次総合計画」及び「三朝町過疎地域自立促進計画」を柱に、令和元年度に本格的な施設整備に着手します。

【概算事業費及び財源内訳】

項目	金額(円)	備考
監理業務(H30.R1)	10,476,000	
施設整備工事	10,476,000	基金処分
工事請負費(R1)	111,100,000	
施設整備工事	111,100,000	処分+直充+ 過疎+一般
合計	121,576,000	

財源区分	金額(円)	備考
交付金	99,082,000	
うち 基金積立・処分	50,084,600	H30
うち 基金処分・直接充当	48,997,400	R1
地方債(過疎対策事業債)	19,100,000	
一般財源	3,394,000	
合計	121,576,000	

【交付金額の内訳】

年次	年度	金額(円)	備考
1	平成30年度	50,084,600	基金積立
2	令和元年度	48,997,400	基金充当 直接充当
	合計	99,082,000	

【工程表】

三朝町総合文化ホール改修事業計画書

1 三朝町総合文化ホールの現状と課題

三朝町役場西側に平成7年5月にオープンした「三朝町総合文化ホール」は、鉄筋コンクリート造り2階建て（一部4階）、延べ床面積3,074.29㎡で、平成5年から約2年間かけ「生涯学習と文化振興」「健康づくり」「交流機会の増大と山村振興」の新たな拠点施設として整備しました。

平成26年度には町人口6,800人に対して約5.6倍の38,200人、1,680件の年間利用があり、その名のおり本町の「生涯学習と文化振興」「健康づくり」「交流機会の増大と山村振興」の拠点、かつ町内唯一の大ホールとして町民みなさんから親しまれています。

具体的には、各種講演会やイベント、成人式や健康診断などの町行事の開催、演劇や音楽鑑賞、小中学校の音楽会や文化祭の会場として、また、各種文化サークルの活動拠点として多種多様な利用がなされています。

立地は、町内道路網の扇の要部分に位置していることから、災害などの緊急時に最も重要な防災の拠点のひとつとして、また、避難所として位置付けられているほか、児童・生徒が下校の際、路線バスや家族の迎えを待つ間、夏期には暑さをしのぐ場所として、夕暮れが早い冬期には寒さをしのぎながら安心して過ごすことのできる施設として重要な役割を担っています。

その中で、利用開始から既に20年経過している同施設は、老朽化による建物の劣化が指摘され、台風などの暴風雨の際には天井からの雨漏りが発生するほか、照明設備では、安定器の不具合により蛍光灯が点灯しない箇所が多数確認されているほか、空調設備においては、空調設備の故障により設備交換、修繕等を頻繁に行わなければならないなど、施設の全面的な改修が急がれています。

2 事業の目的及び内容

安全で快適な文化ホールを目指すため、公共施設の長寿命化対策として三朝町総合文化ホールの大型改修を行います。

平成27年度は、屋根防水改修の実施設計を実施し、三朝町総合文化ホール改修のため基金を造成いたしました。平成28年度初旬から屋根防水改修工事に着手し、中旬より照明・空調設備改修工事に取り掛かり完成を目指します。

また、平成27年10月から改修事業の進捗状況に合わせて利用や予約などの調整を図ります。

建物名	改修内容	改修の詳細
三朝町総合文化ホール	①屋根防水改修	屋根防水改修工事監理費 屋根防水改修工事費
	②照明・空調設備改修	照明・空調設備改修工事費

3 期待される効果

三朝町総合文化ホールの屋根、照明設備及び空調設備を改修することにより公共施設の長寿命化を促進し、地域住民が安心して快適に利用できる施設となり、住民福祉の向上につながるほか、更なるコミュニティ活動の充実が期待できます。

また、施設の改修により、利用者の増加も期待され、三朝町へのさらなる集客促進により、

地域全体が活性化し住民福祉の向上につながります。

4 概算事業費及び行程等

平成 27 年度に策定した「第 10 次三朝町総合計画 後期基本計画」及び「三朝町過疎地域自立促進計画」「三朝町総合文化ホール長寿命化計画」を柱に、平成 28 年度に本格的な改修に着手し、次年度以降計画的に改修を進めていきます。

【概算事業費及び財源内訳】

項 目	金 額 (円)	備 考
監理業務 (H28)	6,975,720	
屋根防水改修	1,305,720	基金処分
照明・空調設備改修	5,670,000	過疎＋一般
工事請負費 (H28)	197,078,400	
屋根防水改修工事	22,474,800	基金処分
照明・空調設備改修工事	174,603,600	処分＋直充＋ 過疎＋一般
合 計	204,054,120	

財源区分	金 額 (円)	備 考
交付金	107,184,400	
うち 基金積立・処分	53,464,400	H27
うち 基金処分・直接充当	53,720,000	H28
地方債 (過疎対策事業債)	96,500,000	
一般財源	369,720	
合 計	204,054,120	

【交付金額の内訳】

年次	年 度	金 額 (円)	備 考
1	平成 27 年度	53,464,400	基金積立
2	平成 28 年度	53,720,000	基金充当 直接充当
合 計		107,184,400	

ふるさと健康村改修事業計画書

1 ふるさと健康むらの現状と課題

三朝温泉街から散策路を西に下ると左手に「ふるさと健康むら」が現れます。この「ふるさと健康むら」は、三朝温泉の周辺施設整備の一環として、町民や観光客のみなさんに余暇活動の場を提供しようと三朝町が、平成元年から平成4年までの4年間をかけて整備し、平成5年春に三朝町横手地内にオープンしました。

総面積約25,000㎡の敷地内には、施設と広場を有し、管理棟のほか主要施設となる「ふれあい体験むら」には、特産品などを販売する「物産館」のほか織物や染物の創作活動が体験できる「織物工房」白狼焼きの創作活動が体験できる「ギャラリー工房（陶芸工房）」が整備されました。

完成から20数年経過し、景気の急速な低迷や観光ニーズの多様化、様々な社会情勢の変化によって、本町を訪れる観光客の減少が進行したうえ、施設全体の老朽化や荒廃が進む中、施設全体の抜本的な改革が急務となりました。

このことから当該エリアを「子育て健康・交流エリア」として検討することを決め、平成24年度には「ふるさと健康むら再整備計画」を策定し、ふるさと健康むらを町の中心的な公園・交流施設として位置付けながら、町民はもとより観光客のみなさんにもより親しんでいただくことができる機能を持つ広場として再整備していくこととしました。

平成24年度にはみささこども園を整備。平成25年度には、自由広場、グリーン広場、子ども広場の3ゾーンを基本に十分な来場者に対応できる駐車場を整備しました。

その中で、利用開始から既に22年経過している「物産館」「織物工房」「陶芸工房」「管理棟」の4棟は、老朽化による建物の劣化が指摘され、台風等の暴風雨の際には天井からの雨漏り対策に苦慮している状況が続いています。

このようなことから平成25年10月に外部及び内部の建物雨漏り調査を実施したところ、外壁の劣化、雨漏り、雨漏りに伴う黒カビの発生、内部クロスの破損、よごれ等の劣化損傷が多く発見されるなど改修が急がれています。

2 事業の目的及び内容

安全で快適な公園の整備を目指すため、「子育て健康・交流エリア」内にある建物の改修を行います。

建物名	用途	改修内容
物産館	物産販売及び統括事務所	①外部 屋根トップライト部分及び外壁の改修等
陶芸工房	陶芸体験、見学、展示	
織物工房	織物体験、見学、展示	②内部 天井及び内壁の改修等
管理棟	トイレ（外部から利用可能）及び倉庫、事務所	外部 外壁全面塗替、トップライトシーリング打替等

3. 期待される効果

「物産館」「陶芸工房」「織物工房」「管理棟」を改修することにより地域住民が安心して利用しやすい施設となり、住民福祉の向上に繋がります。

[変更後]

観光広告塔整備事業計画書

1 三朝町及び三朝温泉の現状

三朝町は鳥取県中部に位置し、町の南側は中国山地を背に岡山県境に接しており、人口6,928人、世帯数2,594戸(H26.4.1現在)です。町の面積は、233.46km²でその内のおよそ90%は山林原野であり、その山林から湧き出る清らかな水を受けて栽培される三朝米は、大変美味しいとの評価をいただいております。

その中心部に位置する三朝温泉は、850年の歴史を有し、1916年に、高温泉では世界屈指のラジウム含有量を有する温泉として認定されてからは、湯治や娯楽を目的とした人々や、三徳山を訪れる観光客など、豊かな自然と歴史、文化に恵まれた観光地として発展してきました。そして、景気の変動やライフスタイルの変化による観光の多様化といった時代の波にも、三朝温泉は独自の地域文化を形成することで、観光温泉地の歴史を築いて来たところです。

しかしながら、社会の情勢は、観光ニーズの多様化、団体旅行から個人旅行への転換や体験、健康志向などへと変化し、従来の温泉と娯楽から個人の価値観を求める意識が高まるほか、円高による海外旅行の低価格化なども相まって、宿泊観光客は、平成8年の55万人をピークに年々減少し現在では35万人となっており、地域経済の主体である観光経済の落ち込みへの対応を迫られております。

そのような中、温泉街の関係者のみならず、地域と連携し、時代のニーズにあった三朝温泉へと変革を遂げ、三朝温泉ブランドを全国へと発信していくことを目標に掲げ、併せて、温泉街の再整備に取り組み、三朝温泉ブランドにふさわしい温泉街への再生を目指して官民共同のもとさまざまな事業を展開しているところです。

2 事業の目的及び内容

三朝温泉街を通る県道は、道幅は狭く歩道がないうえ急なカーブも数か所あることから、三朝温泉街付近の住民や観光客などの安全、車両のスムーズな通行を確保するため三朝温泉街を迂回する三朝バイパスが平成17年に完成しました。

バイパスが完成したことにより、温泉街を往来する車の交通量は減り、観光客や地域住民の安全、車両のスムーズな運行は確保できましたが、バイパスが新設されたことを知らない観光客など三朝温泉へ向かう道を通り過ぎ、迷ってしまう事案が発生。温泉街分岐点前には県が設置した大型案内標識がありますが、夜間は暗くて見づらく、同案内標識を見過ごし三朝温泉を通り過ぎる観光客があり問題となっています。

また、三朝温泉の玄関と言える国道179号線ですが、三朝温泉を案内する標識が乏しく、三朝温泉を上手にPRできていない状態にあります。

これらの課題を解決するための対策として、三朝温泉との分岐点付近及び国道179号線沿いに観光広告塔を整備し、三朝温泉街にある公共機関の利用者や観光客が迷うことなく三朝温泉に来ていただくことができるよう確実な誘導と、三朝温泉を広くPRするため整備したいと考えます。

	規格	設置場所
広告塔1	10m×2m×2m (以内)	三朝町砂原 (三朝温泉街東口付近)
広告塔2	10m×2m×2m (以内)	三朝町今泉 (国道179号線沿い)

※ 旅館・商店・観光事業者・地元関係者等より構成される「三朝温泉街再生プロジェクトチーム」を活用し、案内板の設置位置、デザイン等さまざまな角度から意見・提案いただいた上で、具体的な整備計画を作成しています。

災害対応車両整備事業計画書

1. 現状と課題

本町は 233.46 km² という広大な面積を有し、且つ総面積の 9 割が山林という地形であることから風水害、特に急傾斜地の崩壊、地滑りなどの土砂災害による危険が高い地域といえます。

このような災害が予想される本町において、迅速な対応に備える町所有の車両による災害時における避難者や災害対応要員の輸送や広報活動は非常に重要な備えであるといえます。

現在は、町有の公用車によりこれらの対応をしておりますが、整備から 10 年以上が経過し、走行距離も 150,000~200,000km であることから老朽化による車両の安全な運行が困難な状況にあります。

【現有災害対応車の状況】

車種	登録年月日	経過年数 (H26.3.31 現在)	走行距離 (H25.12.31 現在)
マークIIクリオス	H13.3.16	13 年	202,983 km
カローラフィールダー	H13.3.23	13 年	179,117 km

2. 事業の目的及び内容

大雨等の災害が発生した場合、町では、災害状況の把握の他、町民に対する避難準備指示や避難勧告などの広報、災害時要援護者の避難援助等の活動を行います。

これらの活動を迅速に行い、災害時の人的被害を最小限に押さえることを目的として、災害対応車両 2 台を購入します。

【購入（予定）車両】

車種	使用目的	整備位置
ハイエースワゴン	人員輸送用車両	三朝町大瀬
カローラフィールダー	災害時広報等用車両	三朝町大瀬

※共通事項として 2 台の車両には以下の設備を有することとします。

- ①本町における冬期間の降雪、路面状況を考慮し 4 輪駆動を必須とする。
- ②移動系無線の設置（既存車両からの移設）
- ③当該車両は災害時要援護者の避難支援、町外、県外への避難支援等にも使用が想定されることから、カーナビゲーションシステム、ETC ユニットを設置。

なお、これらの車両は、各種防災訓練等にも有効活用することとします。

3. 期待される効果と災害対応車両として活用することが必要である理由

本事業を実施することにより、安全且つ効率的な災害、避難活動を実現することができることにより、安心安全な町づくりが図られ、住民福祉の向上につながります。

【具体的な活用例】

- ①避難する際に 1 人では避難行動をすることが出来ない、いわゆる災害時要援護者に対し、個別車両による避難を行う等のきめ細やかな対応行える。
- ②災害現場へ職員を派遣する際に、効率的な運用を行うため、一度に多くの人員や資機材が輸送できる。
- ③災害現場確認時、状況に応じて速やかに住民避難を促したり、道路の通行止めを周知することができる。

③概算事業費及び財源内訳

項 目	金 額 (円)
ハイエースワゴン	4,196,911
内訳外経費等対象外経費	△168,680
カローラフィールダー	2,397,382
内訳外経費等対象外経費	△140,710
交付対象経費	6,284,903

【交付金額の内訳】

財 源 区 分	金 額 (円)
交 付 金	5,000,000
一 般 財 源	1,594,293
計	6,284,903

三朝温泉新観光拠点施設整備事業計画書

1. 三朝町及び三朝温泉の現状

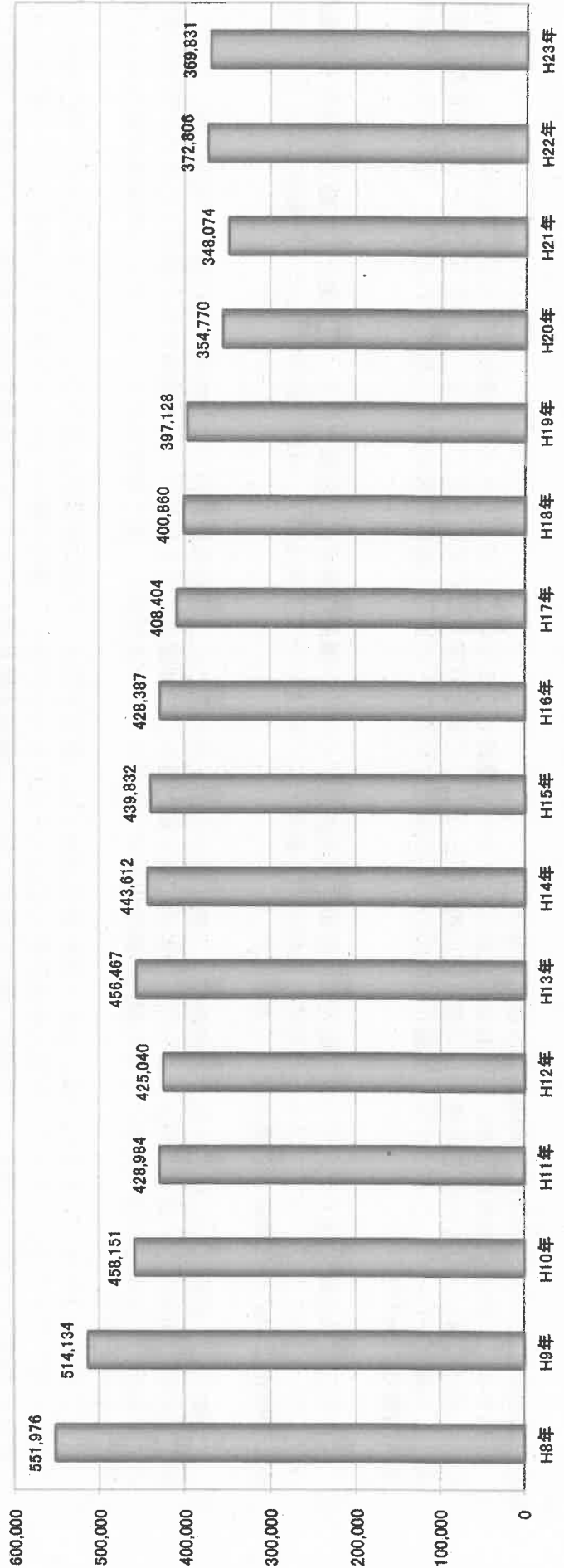
三朝町は鳥取県中部に位置し、町の南側は中国山地を背に岡山県境に接しており、人口7,065人、世帯数2,622戸(H24.8.1 現在)です。町の面積は、233.46km²でその内のおよそ90%は山林原野であり清らかな水を受けて栽培される三朝米は、大変美味しいとの評価をいただいております。

三朝温泉は、850年の歴史を有し、1916年に、高温泉では世界屈指のラジウム含有量を有する温泉として認定されてからは、湯治や娯楽を目的とした人々や、三徳山を訪れる観光客など、豊かな自然と歴史、文化に恵まれた観光地として発展してきました。そして、景気の変動やライフスタイルの変化による観光の多様化といった時代の波にも、三朝温泉は独自の地域文化を形成することで、観光温泉地の歴史を築いて来たところです。

しかしながら、社会の情勢は、観光ニーズの多様化、団体旅行から個人旅行への転換や体験、健康志向などへと変化し、従来の温泉と娯楽から個人の価値観を求め高まるほか、円高による海外旅行の低価格化なども相まって、宿泊観光客は、平成8年の55万人をピークに年々減少し現在では37万人弱となっております。地域経済の落ち込みへの対応を迫られております。

単位：人

三朝温泉宿泊観光客数の推移



2. 三朝温泉観光商工センターの現状と問題点及び取組状況

① 昭和52年に旧三朝村役場跡地に三朝温泉観光商工センターを建設し35年経過しておりますが、老朽化による常時の雨漏り、また外壁のレンガは崩落し、町では応急措置として落下防止網を張っているところですが、このようことから昨年度に専門家による調査を行ったところですが、雨漏りの原因の特定が困難であることに加えて耐震対策の必要も指摘されるなど、建物全体の安全確保が困難な状況です。

② 現在の三朝温泉観光商工センターは、観光客の情報発信機能及びイベント開催機能がない状態であり、観光地として魅力を創出する施設となっていないことやバリアフリーへの対応、女性に利用しにくいといった苦情も多く一般の方が利用しにくい施設となっております。更に国際化に対応した機能も必要となってきました。

③ 三朝町では、昭和4年に作製された無声映画「三朝小唄」の復元や、新たに三朝温泉を舞台とした映画「恋谷橋」の全国上映によって三朝温泉の昭和初期からの温泉情緒と、まちなみの保全に取り組みほか、三朝温泉に含まれるラドンの健康効果を解明するための学術的研究の効果を活用しながら全国の先駆けとなる現代の湯治場とアランチエイジングを提供し、美と健康をイメージさせた三朝温泉の魅力向上に取り組むものとする。

また、平成23年4月に策定した第10次三朝町総合計画では、施策目標として国内年間宿泊者数35万人を39万人に、現代湯治による宿泊者数13千人を30千人に、外国人宿泊者数12百人を500人と設定し三朝町の魅力の向上と交流人口の増加といった視点に立ち、三朝町の地域特性に即した観光・交流機能の創出を進めており、三朝温泉観光商工センターの改築事業は目標達成のための重要な施策の一つに位置づけられています。

3. 整備の目的

新たな魅力作りと地域の活力を創造するための観光拠点としてだけでなく、ユニバーサルデザインに対応した新しい拠点施設として三朝温泉観光商工センターを改築することにより、高齢者等が利用しやすい施設とし、住民福祉の向上に資することを目的とします。

4. 期待される効果

老朽化の著しい三朝温泉観光商工センターを、国際化への対応機能と情報化機能を備え、観光ニーズに融合した新たな施設に改築することにより、観光経済が活性化することが期待されます。

観光案内機能を整備することにより、観光客への情報発信を充実させるとともに、イベントスペースを整備し、観光客がより楽しめるイベントを企画、開催するなど新規観光客の増加やピーター観光客の増加を見込んでおり、三朝温泉観光商工センターを中心に三朝温泉全体の活性化につながります。

また、観光客の増加は、温泉街の旅館の雇用拡大はもちろんのこと、三朝町内全体の雇用の拡大や、町内事業所の収益増加につながるなど経済効果も期待でき、産業の振興により住民福祉の向上が図られることが期待されます。

5. 全体計画

(1) 施設整備位置
三朝町大字三朝地内 (別紙位置図参照)

(2) 施設概要

① 施設機能

1 階部分・・・観光案内、駐車場、イベントスペース→ 平日は三朝温泉のPR、イベント案内ブースとして、また毎週金、土の夕方に実施している観光イベントの会場として使用する。

2 階部分・・・事務所→ 三朝町が主体となり三朝温泉の活性化に向けた取り組みを行う活動や地域住民の福祉の向上に向けた取り組みを行う活動拠点の事務所等としての活用を検討している。

会議室→ 週1～2回の頻度で一般町民及びボランティア団体等の会議及び打合せ等で使用するなどコミュニティの場としての利用を考えている。

② 面積 386㎡ (床面積 1階部分214㎡ 2階部分172㎡)

③ 構造 木造2階建

(3) 管理運営等

現在、三朝温泉観光商工センターは、三朝温泉観光協会に指定管理委託し運営管理を行っておりその他、無償で貸付を行っている。これは、「三朝町財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例」第4条第1項において、「地方公共団体その他公共団体又は公共的団体において公用若しくは公共用又は公益事業の用に供するとき無償で貸付することができる」としており、本町においては、この条例に基づき、公共性における目的から入居者に対して家賃を免除しているところである。また、当該事業（建物の政策）の前後で取り扱いについて変更がある訳ではなく引き続き同観光協会に指定管理委託しその他、無償で貸付することを検討している。

なお、改築する建物に入居できるのは、本町が事業や目的の公共性を認めた団体であり、同じように公共性が認められれば、他の団体でも入居を妨げるものではない。

(4) 概算事業費及び財源内訳

項目	金額(円)
工事請負費	161,784,000
設計監理委託費	13,833,000
計	175,617,000

財源区分	金額(円)
交付金	164,124,000
うち 基金充当	109,739,400
うち 直接充当	54,384,600
一般財源	11,493,000
計	175,617,000

【交付金額の内訳】

年次	年度	金額(円)	年次	年度	金額(円)
1	平成23年度	55,135,200			
2	平成24年度	54,604,200			
3	平成25年度	54,384,600			
			計		164,124,000

(5) 運営計画等

平成23年度から平成24年度

三朝町まちづくり検討委員会（観協会、旅館組合、商工会、NPOみささ温泉、町）、提案募集
 平成25年度から平成26年度
 実施設計及び解体工事、改築工事

(6) 三朝温泉新観光拠点施設整備事業工程表

	平成24年度			平成25年度												平成26年度										
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
提案書作成																										
提案募集																										
設計業者選定																										
設計委託																										
設計																										
完了検査																										
起工(解体)																										
入札																										
解体契約																										
解体着工																										
完了検査																										
起工(本体)																										
監理入札																										
監理委託																										
監理																										
完了検査																										
起工(本体)																										
入札																										
施行契約																										
監査提案																										
本体着工																										
完了検査																										

(7) 三朝温泉観光拠点施設を中心としたイメージ
 別紙添付書類による

令和2年度電源立地地域対策交付金事業（教育支援バス更新事業）について

1 事業検討の経過

- ①片柴区における防火水槽新設工事において、地盤が軟弱なため、予定地での施工が中止となる。→新しい候補地を選定し、後年度実施決定（片柴区長了解済み）
- ②防火水槽について、他の候補地を検討したが、年度内での工事完了が見込めないことから別事業検討することとなる。
- ③老朽化した教育支援バスの更新に向けて検討する
※平成31年度予算編成時に検討したが、交付金の積み立てによる購入ができないことを確認。別事業への充当となった。
- ④年度末までの期間で事業完了できることを前提に検討した結果、単町費の負担（約50%）は必要となるが、この機会に老朽化した教育支援バスを更新する方針で臨むことを決定し、関係機関と調整を行ってきた。

【車種について】

通常スケジュールで発注すると、3月中の納車は困難なため、車種を特定し手続きを進める必要がある。マイクロバスには、日産、三菱、日野、トヨタの4種類がある。総排気量4.009(L)、最高出力175psを希望することから、OEMで供給される、日野とトヨタのマイクロバスの2択となる。アフターサービス（365日24時間対応）を条件とすることで、日野のみに絞り込む。

2 日野自動車との確認事項

車両の納期等について島根日野自動車(株)鳥取支店と協議を行った。確認事項については下記のとおり。

- ・年度内に支払いを完了させるためには、11月13日頃までに発注する必要がある。
- ・枠押さえは可能であり、納期にも間に合う
- ・枠押さえをすると、車両の製造も進んでしまうため、後でキャンセルすることはできない。

上記のことから、町内者販売事業者が、日野のマイクロバスを発注することが見込まれ日野自動車特販部への枠押さえを済ませている状況

3 事業スケジュール

10月29日	日野自動車へ仮申込み（済）
11月20日頃	11月臨時議会で予算承認（議会関係者へは事前説明済み） →その後、見積入札、業者決定（町内3者）、仮契約
12月18日頃	12月議会で財産取得の議決 →本契約
3月15日頃	納車
3月25日	支払い（＝事業完了）
4月10日	交付金実績報告締切
5月頃	中国経済産業局による現地検査

4 電源立地地域対策交付金について

- ・ 交付決定は12月1日頃
- ・ 契約は交付決定日以降に行うこと（起工～業者決定までは交付決定日前でも可能）
- ・ 事業完了＝支払いのため、年度内に支払いまで完了させること。
- ・ 仕様の変更、額の変更（入札減）等があった場合は、変更契約等を締結する前に、経産局へ協議する必要がある。
- ・ 車体に「令和2年度電源立地地域対策交付金事業」という表示の必要あり
(ラッピングとの関係もあるので方法については要検討)

事業を行うことが必要な理由

1. 先行事業、類似事業に係る評価を踏まえた改善点、工夫によって更に発展が期待できる点

2. 現状と問題

当該集落における防火用水槽は自然水を取り込む無蓋の防火水槽で、老朽化しています。無蓋であるため、安全の確保が十分でなく、消火活動中に転落する危険性があることや、ゴミや汚泥等のたい積物による吸水障害が懸念され、災害時に十分な防火用水としての役割が見込めない可能性があります。また、無蓋であることにより腐臭や蚊の発生など周囲に及ぼす衛生面での懸念もあります。加えて、老朽化や地震等が原因でひび割れした場合に漏水する可能性があり災害時に機能しなくなることがあります。

3. 事業の必要性

消防水利として消火栓もありますが、このような地震などの災害時には水道施設が途絶することもあり、そういった際に防火水槽は重要な役割を果たします。平成28年10月21日には、鳥取県の中中部を震源として鳥取県中部地震が発生し、多大な被害をもたらしました。近年、全国的に地震をはじめとする豪雨などの大規模な自然災害が多発しており、いつどこで大規模災害が発生してもおかしくないという状況にあります。

4. 事業概要

(1) 事業内容

既存の蓋の無い防火水槽の防水工事及び有蓋化を実施する。

(2) 仕様

マリンかぶせーる工法（有蓋化及びKCガード装着）

(3) 事業位置

鳥取県東伯郡三朝町大字今泉

除雪機整備事業計画書

1. 本町の現状および除雪対策

本町は、鳥取県の中央部に位置し、東西 24 km、南北 19 km で総面積 233.52 km² と広大なうえ 5 つの深い谷筋に分かれており、特に奥部集落など迅速な除雪対応が必要とされています。

また、町内には、三朝温泉をはじめ数多くの観光資源があり、国際観光のまちとして地域産業を支えるうえでも、除雪対策は重要な位置づけとしています。

現在、国道・県道にあつては鳥取県（一部業者委託）が対応し、町道は 6 台の除雪機を利用し、町職員の中から大型特殊免許を取得したオペレーターと補助員の 2 人 1 組で作業班を結成し、それらのローテーションにより除雪対応をしています。

また、歩道や学校等の公共施設については、地域の住民等の参画を得ながら 25 台の歩道用除雪機で除雪を行なっています。

積雪シーズンに入る前の 11 月には、通勤・通学等の町民生活や来町する観光客に支障がでないよう、各関係者による三朝町除雪対策会議を開催し、「三朝町除雪計画」（別紙参照）に沿って住民等の協力を得ながら交通の確保・雪に強い道路環境づくりを推進し、あらゆる積雪に対応できる体制を整えています。

2. 問題点とその対策

近年、ゲリラ豪雪が発生することが多くなり、その際は、全車が出動していますが、現地到着が遅れるなど十分な除雪ができなかった事案が発生しています。

また、雪寒指定路線以外の路線（以下「対象路線」という。）については、除雪作業順位が後になることがあり、当該町民に不便をかけています。

これらのことから、ゲリラ豪雪にも強い除雪体制を構築し、円滑な道路交通を確保するため、計画的に除雪機を追加整備するなど道路除雪に万全を期することとしています。

直近の対策として、本町には 5 つの深い谷がありますが、効率的かつ迅速な除雪を実現するため扇の要部分である三朝町役場に機動力に優れた除雪機を 1 台整備します。

3. 期待される効果

本整備事業を実施することにより、効率的かつ迅速な除雪体制を整備することができます。

具体的には、除雪作業順位が後にならないよう対象路線の総延長 21,145m 部分に対して、雪寒指定路線の除雪開始時刻と同時に除雪を開始し、1,000m を 16 分（2 台で行うと半分。図上では総延長を 6 時間）で除雪作業を完了することを目標としています。

当該除雪機を配備することにより、よりすばやく町民の安心安全な交通確保を図ります。

4. 全体計画

(1) 事業内容

機動力に優れた除雪機（スノープラウ装備 2 t ダンプ）1 台を整備します。

(2) 整備位置

三朝町大字大瀬地内 (別紙: 位置図 参照)

(3) 概算事業費及び財源内訳

項 目	金 額 (円)
設備費	9, 291, 922
計	9, 291, 922

【交付金額の内訳】

財 源 区 分	金 額 (円)
交 付 金	8, 800, 000
うち 基金充当	4, 400, 000
うち 直接充当	4, 400, 000
一 般 財 源	491, 922
計	9, 291, 922

年次	年 度	金 額 (円)
1	平成27年度	4, 400, 000
2	平成28年度	4, 400, 000
	合 計	8, 800, 000



地域活動用テント整備事業計画書（案）

1. 現状と問題点

本町では平成18年度から町の元気の源が地域の存在にあることにかんがみ、地域住民が主役となり、地域の総合力を高める活動をとおして、いきいきとした暮らしが実感できる自主的な地域づくりを促進することを目的に地域の住民で組織する6つの地域協議会を設置しています。

平成28年8月には三朝町地域協議会設立10周年を迎えたことから記念行事を開催。今後さらなる地域づくりを推進するため、原点に立ち返り、住民の一番身近な地域づくり組織であること、またその役割をはたしていくことを再度確認したところです。

さて、当該地域協議会は、各地域の核として年間を通じてさまざまな活動を実施しており、コミュニティの醸成を図るため、大運動会、納涼大会などの夏祭り、収穫祭などの秋イベントなど定期的に各種イベントを実施し成果をあげていますが、各種イベントを開催するうえで『テント』は、各地域協議会や各集落で欠かせない備品となっています。

様々な活動のたびに共同で使用している『テント』は、度重なる修繕を行ってきましたが、老朽化に伴う危険性を考慮すると、使用可能なテント数が少なく、イベントが重なり必要数が足りないときには、町内の学校や地元の企業から借用している状況となっています。

また、テントの設置・収納は、各パーツに分かれている重い柱や梁、シートを組み立てる仕様であることから体力をつかうことはもちろん、慣れない作業のため指を挟むことがあるなど危険であり、作業は若い住民に限られています。

これらのことから地域住民から高齢者から子どもまで安心して簡易に設置・収納できる、軽量かつ丈夫なワンタッチテントの新規の整備について多く要望が出されているところです。

2. 事業の必要性及び内容

各地域協議会では、大運動会、夏祭り、収穫祭などの活動を数多く実施していますが、さらにより多くの方に参加していただくうえで、強い日差しや急な雨等に対応し、高齢者など、誰もが安全に設置・収納ができ、かつ快適に事業実施するため、地域活動用テントを整備しイベントが充実したものになるよう推進していく必要があります。

また、これらのテントは、予期しない災害が発生したときの一時避難所、炊き出し等の設置に活用することができます。

そこで、地域住民のコミュニティのさらなる推進と、安心安全な地域づくりを推進するため、高齢者から子どもまで安心して簡易に設置・収納できる、軽量かつ丈夫なワンタッチテントを整備することとしました。

3. 期待される効果

本事業を実施することで、イベントの際、強い日差しや急な雨等に対応し、高齢者など、誰もが安全に設置・撤去ができ、かつ快適に事業実施できることはもちろん、頑丈なフレーム、防水、防災であるワンタッチテントを採用することから、災害時の一時避難所、炊き出し等の設置に活用でき、地域の防災体制の充実が期待できます。

指標

- ①設置・収納時間の短縮 設置（2名） 現状 15分 → 整備後 40秒
- ②持ち運びやすさ（軽量） 総重量 現状 75kg → 整備後 40kg
- ③テント設置・重さ等の使いやすさ、安全性、防災対策等の住民満足度 100%

4. 全体計画

(1) 事業内容

コミュニティ活動に欠かせないイベント等で使用するワンタッチテントを12張り整備します。

イベントでは火を使用する機会が多いため安全を考慮して、整備するテントは「日本防災協会防災製品認定品」とします。

(2) 整備位置

三朝町大瀬999-2（別紙：位置図 参照）

(3) 事業費及び財源内訳

事業費

項目	金額(円)
ワンタッチテント整備費	2,449,440

財源内訳

財源区分	金額(円)
交付金	2,074,840
うち 基金充当	-
うち 直接充当	2,074,840
一般財源	374,600
計	2,449,440

観光電光掲示板整備事業計画書

1. 三朝町及び三朝温泉の現状

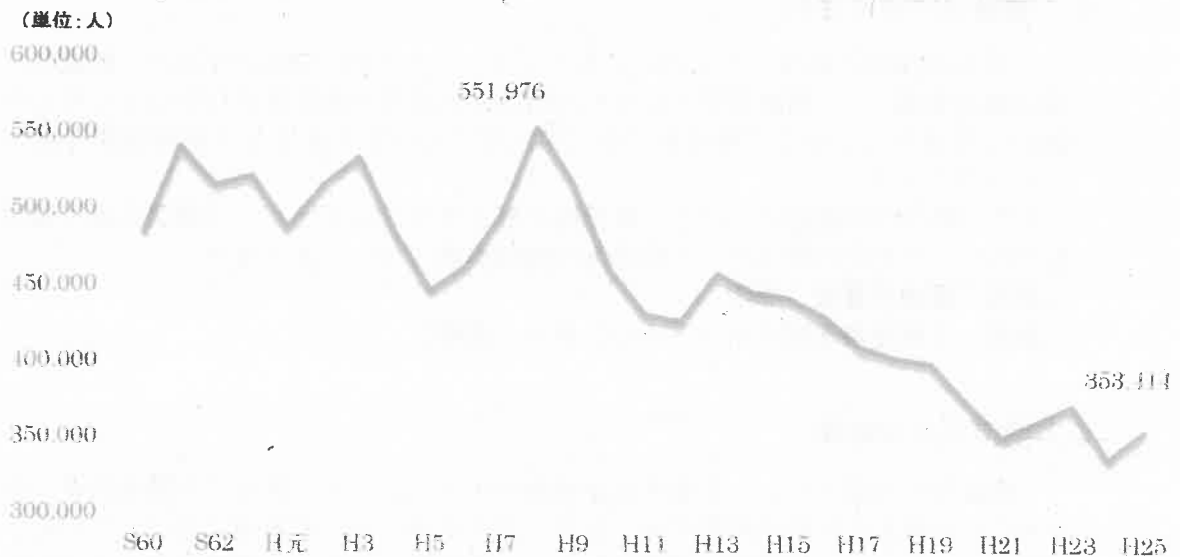
三朝町は鳥取県中部に位置し、町の南側は中国山地を背に岡山県境に接しており、人口6,928人、世帯数2,594戸(H26.4.1現在)です。町の面積は、233.46km²でその内のおよそ90%は山林原野であり、その山林から湧き出る清らかな水を受けて栽培される三朝米は、大変美味しいとの評価をいただいております。

その中心部に位置する三朝温泉は、850年の歴史を有し、1916年に、高温泉では世界屈指のラジウム含有量を有する温泉として認定されてからは、湯治や娯楽を目的とした人々や、三徳山を訪れる観光客など、豊かな自然と歴史、文化に恵まれた観光地として発展してきました。そして、景気の変動やライフスタイルの変化による観光の多様化といった時代の波にも、三朝温泉は独自の地域文化を形成することで、観光温泉地の歴史を築いて来たところです。

しかしながら、社会の情勢は、観光ニーズの多様化、団体旅行から個人旅行への転換や体験、健康志向などへと変化し、従来の温泉と娯楽から個人の価値観を求める意識が高まるほか、円高による海外旅行の低価格化なども相まって、宿泊観光客は、平成8年の55万人をピークに年々減少し現在では35万人となっており、地域経済の主体である観光経済の落ち込みへの対応を迫られております。

そのような中、温泉街の関係者のみならず、地域と連携し、時代のニーズにあった三朝温泉へと変革を遂げ、三朝温泉ブランドを全国へと発信していくことを目標に掲げ、併せて、温泉街の再整備に取り組み、三朝温泉ブランドにふさわしい温泉街への再生を目指して官民連携のもとさまざまな事業を展開しているところです。

○年度別宿泊者数



2. 三朝温泉再生に向けた取り組み

これらの対策として、平成23年度に策定した「第10次三朝町総合計画」第1章第1項「観光業の振興」において、「観光は、本町のイメージアップにつながるとともに、人々の交流をもたらし、産業の活性化や定住・移住を促す側面を持っています。今後は、町の魅力の向上を交流人口の増加といった視点に立ち、本町の地域特性に即した観光・交流機能の創出を進めていく必要がある」とし、主要施策として、①「観光・交流推進体制の整備」②「観光・交流資源の掘り起こし」③「誘客宣伝活動の強化」を上げ、現在ハード面、ソフト面の両面においてさまざまな対策を講じているところであります。

また、三朝温泉は、今年、三朝温泉が発見されてから850年という節目を迎え、これを契機に三朝温泉が目指すポジションを明確にし、三朝温泉を全国に発信する好機と捉え、まちが丸丸となって低迷する三朝温泉の状況を打破していくべく、平成25年度から平成27年度の3年間「三朝温泉開湯850年記念事業」を企画し、現在、各種事業を実施しています。

これは、温泉街の関係者のみならず、地域と連携し、時代のニーズにあった三朝温泉へと変革を遂げ、三朝温泉ブランドを全国へと発信していくことを目標に掲げ、併せて、温泉街の再整備に取り組み、三朝温泉ブランドにふさわしい温泉街への再生を目指して展開しているものです。

(別紙：第10次三朝町総合計画抜粋 参照)

(別紙：三朝温泉開湯850年記念事業企画書(基本構想抜粋) 参照)

3. 早急に取り組むべき課題(本観光掲示板整備事業に関する事項)

このような観光のまちですが、温泉街の中を縦断する県道は、道幅は狭く歩道がないうえに急なカーブも数か所あることから、三朝温泉街付近の住民や観光客などの安全、車両のスムーズな通行を確保するため三朝温泉街を迂回する三朝バイパスが平成17年に完成しました。

バイパスが完成したことにより、温泉街を往来する車の交通量は減り、観光客や地域住民の安全、車両のスムーズな運行は確保できましたが、バイパスが新設されたことを知らない観光客など三朝温泉へ向かう道を通り過ぎ、迷ってしまう事案が発生。分岐点付近には県が設置した2つの大型案内標識がありますが、夜間は暗くて見づらく、同案内標識を見過ごし三朝温泉入口を通り過ぎる観光客があり問題となっています。

(別紙：現況写真 参照)

(別紙：日本海新聞(H25.6.11) 参照)

4. 整備の内容と目的

これらの課題を解決するための対策として、バイパスの分岐点付近に三朝温泉への観光電光掲示板を整備し、三朝温泉街にある公共機関の利用者や観光客が日中はもちろんのこと夜間においても迷うことなく三朝温泉に来ていただくことができるよう確実な誘導を行う整備をしたいと考えます。

また、案内塔の機能について、電光掲示板とすることにより、三朝温泉街で現在行われているイベントやその内容について観光客に随時提供したいと考えます。

(別紙：整備位置図 参照)

(別紙：三朝温泉年間イベントカレンダー 参照)

5. 期待される効果

三朝温泉の玄関ともいえる場所に温泉街がイメージでき、併せて夜間来訪者への案内誘導にも対応した観光広告塔を設置することで、ドライバーの「温泉地に近づいている」という認識が高まるとともに、具体的に『温泉街』への道を指し示すことで観光客への“おもてなし”を形にし、道路標識では不足している温泉街への観光客の誘導を確実且つスムーズに行えるとともに、県内外から訪れる観光客等へのPR効果も期待されます。

このことは、三朝温泉のさらなる集客促進と交流人口の増加、三朝温泉街を中心とした地域全体の活性化および住民福祉の向上につながります。

6. 三朝温泉街再生プロジェクトチームの取り組みおよび活用について

三朝温泉を活力ある温泉地として再生するため、旅館・商店・観光団体・地元関係者等が一体となり、三朝温泉街を再生していくための対策及び必要な機能・ビジョン等について総合的

な検討を行うため、平成23年10月に「三朝温泉街再生プロジェクトチーム」が設置され、約2年もの間、様々な協議・検討を重ね、関係者の熱意と総意を“おもてなしの心”として具体的な形にしていくための構想として、平成26年3月に「三朝温泉街再整備計画」が策定されました。

これまでも温泉街再生に向け、様々な計画が策定されてきましたが、景観保全も含め、情緒ある温泉街を再形成するために、計画策定のみでなく実際に計画を具現化し、事業展開できる態勢を構築し、「温泉街の空き家活用」や「三朝温泉観光拠点施設改築事業」等さまざまな意見・提案をいただきました。

この度、計画している観光電光掲示板整備事業についても同再生プロジェクトチームを活用し、観光電光掲示板の機能や設置位置、デザイン等さまざまな角度から意見・提案いただき、具体的な整備計画のもと、事業を実施しています。

(別紙 三朝温泉再整備計画 参照)

7. 全体計画

(1) 事業内容

県道バイパスから三朝温泉へ向かう分岐点付近に観光電光掲示板1基を整備

(2) 整備位置

三朝町大字大瀬地内 (別紙：位置図 参照)

(3) 整備概要

- ①機能 LED電光掲示案内板 (320mm：3列×9行)
- ②寸法 W1,200×D500×H7,000
- ④構造 鉄骨

(4) 概算事業費及び財源内訳

項目	金額(円)
工事請負費	11,307,600
計	11,307,600

【交付金額の内訳】

財源区分	金額(円)
交付金	8,800,000
うち 基金充当	4,400,000
うち 直接充当	4,400,000
一般財源	2,507,600
計	11,307,600

年次	年度	金額(円)
1	平成25年度	4,400,000
2	平成26年度	4,400,000
	合計	8,800,000

電源立地地域対策交付金事業概要調書

区 分	内 容
1) 事業名	三朝温泉街散策マップ整備事業
2) 事業位置	鳥取県東伯郡三朝町三朝地内（三朝温泉街）
3) 事業概要	<p>本町は、高濃度ラドン含有量世界有数の「三朝温泉」、神社本殿形式の建築物としては日本最古で平安時代後期に建築されたとする「国宝・投入堂」を有する歴史文化と観光の町です。</p> <p>近年では三朝温泉のもつホルミシス効果が体に良いと注目され、「吸う温泉」として観光客はもちろんのこと、療養目的で来られる湯治のお客様などに癒しの温泉地として全国に向け情報発信を行っています。</p> <p>しかしながら観光の中心部にあつて、三朝温泉街の周遊ルート内に設置している大型案内図（全町マップ）が、設置から数十年経過し案内図の表面の劣化や記載情報が古いことから、全体をリニューアルし町内外から訪れる観光客が三朝温泉街を安心して散策できるための観光案内図として再整備します。</p>
4) 事業内容	観光案内図の整備
5) 履行期間	自：平成24年10月17日 至：平成25年2月15日
6) 事業効果	<p>本事業を実施することにより、町内外から訪れる観光客が三朝温泉街を安心して散策できるほか、観光客が旅館以外で過ごす時間を有効に活用できるよう観光情報を提供することにより観光客の温泉街滞在時間が増加し併せて三朝温泉街の活性化につながります。</p>
7) その他	

